

小松市教育目標

生涯学習時代にふさわしく、人間愛を礎とし、自発的に学び、文化を創造し、思いやりの心をもった、明るく元気あふれる市民の実現をめざす。

第1章 自然に親しみ、人間愛を育てる。

- 1 人権を尊重し、敬愛と感謝の心を育てよう
- 2 自然や限りある資源を大切に、住みよい環境をつくろう
- 3 社会参加をすすめ、市民としての自覚をそだてよう

第2章 健やかな心と体を育てる。

- 1 かけがえのない命を大切にしよう
- 2 スポーツやレクリエーションに親しみ、健康増進につとめよう
- 3 忍耐力を培い、自立の心を育てよう

第3章 高い知性と創造性を育てる。

- 1 自ら学ぶ意欲を養い、思考力と表現力を伸ばそう
- 2 科学的な探求心を深め、正しい判断力を育てよう
- 3 歴史と伝統を重んじ、文化の継承と創造につとめよう

第4章 広い視野に立って、郷土愛を育てる。

- 1 ふるさとに親しみ、豊かな情操を育てよう
- 2 勤労と奉仕を重んじ、連帯感を深めよう
- 3 広く海外との交流をはかり、国際性を高めよう

平成22年度 学校経営計画及び学校評価計画書

小松市立 串 小学校
学校長 山越 清寛

1. 経営理念

学校は、将来の社会を担うかけがえのない子どもたちのためにある。

教職員は英知と誠意を結集して、子どもたちの確かな成長をめざす。

学校・家庭・地域は連携して、子どもたちが誇りに思う魅力ある串小学校づくりに努める。

2. 教育目標

「明るく、元気に、たくましく生きる子の育成」

3. 中・長期経営目標

(1) 学校の現状と児童に関する目標

① 一人ひとりが、生き活きと授業に参加し、確かな学力を培う。

学習習慣や学力等、本校の子ども達の実態から、こつこつと努力をして基礎基本に習熟し、それを基盤に活用する力や、自ら学習をしていく力をつけていく。そこで教師は自己研鑽し授業力を向上させ、一人ひとりが意欲をもって参加する授業を創り上げ、確かな学力を育成する。

② 人として生きていくための豊かな心を育てる。

読書の質も高く、歌声もきれいで、本質的には純粋で素直な心をもった子ども達である。そのような実態を基盤に、命を大切にすする心、規範意識や思いやり、感動する心を育てる。そこで、道徳教育を全教育活動で行い、体験学習・地域学習・読書活動・表現活動などを通して、豊かな心を育てる。

③ 人間関係力とたくましい心身を育成する。

身体を動かして遊ぶことが好きな子ども達であるが、そのような実態を基盤にさらにいろいろな友達と遊んだり、新しいことに挑戦したり、努力して最後までやり遂げたりする力を育てる。そこで、体育の授業の充実と運動の日常化、外遊びを中心として人間関係力を向上させ、健康な心身を育成する。

④ 地域に誇りをもち、自己肯定感に立脚し、将来の夢をもつ子を育てる。

子ども達の実態から、自分に自信をもち、友達を認め、地域を愛し、将来の夢を描く力を育てたい。

そこで、道徳教育・学級活動・体験活動などを通して、楽しい学級・楽しい学校生活の中で、夢をもって共に生きていける力を育む。

(2) 児童に関する目標

- ① 自ら学ぶ子（いろいろなことに興味・関心をもち、意欲的に学び、自分の考えがもてる子）
- ② 心豊かな子（命を大切にし、思いやりの心、感動する心、善悪を判断できる心をもった子）
- ③ 挑戦する子（新しいことや困難にも立ち向かい、やり遂げようとする強い意志と身体をもった子）
- ④ 共に生きる子（夢をもち、友だちと仲良く、助け合うことのできる子）

(3) 教職員・学校組織等の望ましい在り方

- ① 学校教育目標・方針を理解し、組織の一員として相互理解の中で、互いの持ち味を發揮して、学校づくりに貢献する。
- ② 自己研鑽に励み、授業力を向上させ、学習効果を高める創意ある教育環境づくりに努める。
- ③ 子ども理解の下、個を大切にされた教育実践の中で、集団としての高まりを創りあげる。
- ④ PDCA のサイクルを意識し、常に改善を図ろうとする姿勢をもって教育活動に臨む。
- ⑤ 地域・保護者の協力や信頼を得られる学校教育の推進をする。
- ⑥ 教育公務員として常に厳正な服務に努める。

4. 短期経営目標（今年度の重点目標）

（「いつでも、どこでも、だれでも」継続的に一貫した指導を行なう。）

(1) 組織的な学校運営

- 全教職員が学校教育目標を理解し、その具現化に努める。
 - ・ 主任を中心とした組織の中で、相互信頼の下、それぞれの持ち味を發揮する。
 - ・ 自己研鑽に励み、研修成果を共有して、相互に切磋琢磨して力量を高める。
 - ・ 危機管理マニュアルを熟知し、適切な訓練を通して、迅速な対応がとれるようにする。
 - ・ 保護者との連携を密にし情報と協力を得て、児童が納得できる生徒指導の実践と適切な教育相談を行なう。

(2) 確かな学力の育成

- 基礎基本を確実に身に付け、思考力・判断力・表現力等の活用する力を育てる。
 - ・ 授業においては、ねらいを明確にして形成的評価を行い、指導と評価の一体化を図り授業を工夫改善していく。（授業の中で自分の考えをはっきり話し、誠意をもって聴く子ども達）
 - ・ 一貫して基礎基本の習熟に心がけ、「ドリルタイム」では自主的に進めるドリル学習を大切にして基礎基本の定着を図る。
 - ・ 教職員は自己研鑽に励み、子ども達が学習したくなる授業をめざし、授業力を向上させる。（話したくなる、聴きたくなる、書きたくなる授業）
 - ・ 算数科において少人数学習集団によるきめ細かな授業を実施し、個の習熟の程度に応じた指導を徹底する。
 - ・ 算数科をベースとして、つけた力を全教科に波及・関連させ、応用させる。
 - ・ 総合的な学習の時間においては、児童自ら学習の成果が自覚できるように、「出会う」「つかむ」「つなぐ」「生かす」の4ステップを大切にして、探求する力を育てる。

(3) 豊かな心の育成

- 命を大切にし、自己肯定感をもち、自らを律しお互いに理解し合う中で、認め合う心や、美しいものに感動する心を育てる。
- ・ 授業を中心に認め合い、励まし合いの人間関係力を向上させ、生き生きと楽しい学級づくりをする。
- ・ 道徳の授業を充実させ、全教育活動で道徳教育を行い、命の尊厳と大切さ、善悪の判断力、美しいものに感動する心、地域を愛する心を育てる。
- ・ 朝読書を中心にこれまでに積み上げられてきた読書活動を充実させ、豊かな言葉と豊かな心を育む。
- ・ 学年を越えた様々な取り組みの下、主体的実践的な態度と共に人間関係力を向上させる。
- ・ 様々な体験活動の中で、判断力や創造力そしてコミュニケーション力を中心とした人間関係力を向上させる。
- ・ エコスクールの取り組みを生かして、環境保全のための実践力を身に付けさせる。
- ・ 必要な情報、正しい情報を収集し、情報を正しく活用する能力とモラルを身に付けさせる。

(4) たくましい身体の育成

- どんなことにも挫けず、たくましくやり抜いていく心と身体を育てる。
- ・ 体育授業の充実とスポチャレや一校一プランなどの年間を通した体力づくり計画を進め、体力の向上を図る。
- ・ 休み時間に異学年交流を含めた外での集団遊びを進め、運動の日常化により、体力と人間関係力の向上を図る。
- ・ 健康安全教育を進め、基本的な生活習慣の定着と、自ら健康安全管理ができる力を育てる。
- ・ 学校内外を問わず、危険を察知し自分の身は自分で守る能力を育てる。

(5) 家庭・地域との連携

- 基本的な生活習慣を身に付けものごとに主体的に取り組み、善悪の判断ができる子を育てる。
- ・ 家庭・地域と連携して、地域ぐるみであいさつ運動に取り組み、自然にあいさつのできる子を育てる。
- ・ 家庭と連携し、生活アンケートなどの取り組みを進め、基本的な生活習慣の定着を図る。
- ・ 育友会総会時における授業参観を始め、年4回の学校公開日を設け、家庭・地域に学校教育活動を知ってもらい、評価を受け改善していく。
- ・ 学級懇談会の出席率を高め、学校や家庭の情報交換をして、課題を共通理解し、解決に向けて話し合い活動する場とする。
- ・ 学校からの各お便りを通して、学校の状況を保護者に伝え、理解と協力を得る。Web ページはこまめに更新し常に新しい情報を伝えていく。